



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 6

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 6. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 6

ISSUE DATE:

1953-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186879>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所
水族館月報

No. 6

1953・2月(3月5日)

寒さが続いて魚の死ぬのが更に激しくなってきた。手を拱いて、魚が持込まれるのを待っていたのでは到底水槽を満たす事はおぼつかないと覚り、10日に餌料と日当とを支拂つて特に魚に出で貰つて4匹。この日の収穫は1匹エビと餌にて大きなイシダイ一匹、現在No.35水槽を独占している。かなり高価にはつくが有効な一方法である。またタカアシガニの購入方を南部所界に依頼しておいたが、埒があかないので、21日海君に雑賀さんをつけ、酒代を持って参上して来て貰つた。効果は顔面で28日には4匹をNo.33水槽に收容した。すると、死んだものでは1匹50月位のカニを生かして水族館に持込むためには、1匹に約500月位を支払わねばならぬ事になる。水族館の魚族の値段には、こんなものがかなりある事を了解しておいていたが、1月大和プロの懇請により送り出したアカウミガメの代金につき、実験所が法外な値を吹きかけたかの如き記事が毎毎に掲載されたと聞いたが、カメ代として要求されたのは^{*}5,000月でその算出基礎は
カメ代金 5,000月 (南紀一帯で採集されたとして)
水族館迄の運賃 5,000月 ()
カメが獲れる迄、水槽を充たしておく大型魚購入資金
(この場合、ブリ5貫を2回に分けて入れる) 5,000月
であった事を記しておく。カメはあと2匹位は是非必要で、今夏は八方午をつくりてみるつもりである。

- * 1 動物園におけるアカウミガメの評価は 5,000月～30,000月の間である
2 大和プロからは他の費用と合して17,565月の内の12,000月を受取っている (記帳は3月)

入場者が1月に3/1続いて意外に多かったので、借入金・未払金等、約90,000円を支払い、いよいよ本年度中に借金完済が確定となったのは喜ばしい。

館員南さんの御令息は3日当地であてにく結婚式を挙げられました。近藤さんの御尊父は16日に京都で亡くなりました。夫々に心よりの祝意と平意を表します。

◎ 2月の入場者数

水族館発売切符数

大人 2637

小人 61

団体 3585

計 6283

明光バス発売切符数

大人 6707

小人 80

計 6787

合計 13070

無料入場者

28

◎ 2月の収入

観覧券売上金

247,469.00

雑収入

400.00

計 247,869.00

雑収入とは水族館における死魚を売却した代金です。死魚は料理して亀や魚の餌料(病魚は魚に与えない)としていですが、水温が低いため亀・魚に全然食慾がなく、止むなく処分せざる人達に押し付けなものです。

② 支 出

1月より繰越(18,750.00
1月分入場税	12,026.00 - 2,004.00(備所山) = 10,022.00
災害予備積立金	8,728.00
差 引	0

人件費(給料、人夫代)	39,780.-
光熱費(電、代)	6,384.-
消耗品費(明光バス切符印刷代他)	1,840.-
備品費(水族館入場記念スタンプ)	900.-
修理費(自転車修理、水増秤金及C金網)	1,800.-
材料費(魚類及C餌代)	12,900.-
厚生費(新聞、慶弔金)	2,230.-
積立金(退職資金、ベースアップ資金、 党費資金、厚生資金)	13,900.-
水族館使用料、会議費積立	20,000.-
旅 費(白浜一南部)	600.-
雑 費(お茶)	70.-
特別費(顕微鏡字真用カメラ代金 一部)	19,000.-
契約金	41,836.-
借入金返済	70,000.-
計	230,440.-
3月に繰越(17,429.-

備所山に対する契約金は
 $(247,469.00 - 1,250.00) \times \frac{1}{6}$ として算出されりた。

③ 入場税

25・26 両日大阪夕陽丘会館で開催された全国博物館
 研究協議会で入場税と結びついた登録の問題について論議
 がつくされりた。この件についての詳しい報告及び対策につ

いての協議は4月上旬に開催の委員会に於て行います。

◎ 2月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(19)	7	7	5
気 温	$\frac{5.9-10.0}{7.4}$	$\frac{7.5-15.0}{10.4}$	$\frac{7.0-14.1}{10.5}$
水 温	$\frac{11.4-13.4}{12.4}$	$\frac{12.7-16.2}{14.1}$	$\frac{12.3-15.2}{13.8}$

組い 気温は南水槽室
水温はNo.22水槽で10時に測定

◎ 2月の魚

水槽とにぎわっていた魚が次々に死絶えた。

- 1) コバンサメ ----- 5日
- 2) ニシキエビ ----- 7日
- 3) ミノカサゴ ----- 22日
- 4) コウイカ ----- 22日

数を調べたところ、このコウイカはハリイカであった。この数は弱ってくると水面に浮かび上りて沈み付く。

次いで腹面の美しい緑玉色が次第に褪めて白くなり、最後にはつもは縮めている触手をだらりと伸ばし切つて、これが一息絶である。

交代して次の魚類がら目見得ている。

- 1) ブリ ----- 5日。約2貫目のもろ2匹がNo.24水槽に入つた。当座に於けるこの魚の名称は次の通り。(自浜所漁業組合採用)

俵長	呼 び 名
10 cm位	ワカサ
20 "	ツバス
30 "	イナダ
40 "	ハマチ
60 "	メジロ

14) 以下の記録がある。

1) アカクラゲのエフアイラ No.26-16, 28水槽に於てメス卵発生を続けている。

2) ウメホシイソギンチャク 去年12月12日に母体より排出された幼者は、3月4日現在 豆粒の径約15mmに成長している。

3) ヒトエグイ 7日 エビ網にかいたものを1匹購入した。前回のものとは異なり体は灰白色を呈し、それに淡灰褐色の斑紋がある。

4) アメフラン 下旬になつて一匹、二匹と採れるようになった。

② 魚の味

水族館で飼養した魚が死んだ時、出来るだけそれを食べて味を記録しておくに...と思うが、この2月中に皆で餌に（餌ものはいつでも、脂が落ちて、まるで砕氷を水でもどいて食べるようであつた。水族館に入れて食えるのは、せいぜい5日と云うが、長ければ長い程確かに味は落ちてくる。ニシキエビは大味でやゝ固いが、1が1美味であつた。

③ 委員会

4月11日（土）に実験所で委員会を開催します。いづれ改めて御案内は申し上げます。次に今晩に決定した振興会役員を記しておきます。

会長 宮地 傳三郎 （所長）

監事 本田 要太郎 （会計課長）

水野 喜久三 （理学部事務長）

岩城 一 治 （白浜町助役）

委員 宮地 傳三郎

内海	富士夫	(実験所員)
時岡	隆	(")
山路	男	(")
高田	喜三次	(理学部事務室)
南	和七	(白浜町長)
峰尾	繁	(白浜観光協会長)

時岡隆